

令和6年度第2回大分市公共施設マネジメント推進委員会 概要

I 日 時：令和6年11月13日（水）13：30～

II 場 所：大分市役所議会棟3階 第五委員会室

III 出席者（敬称略）

〔委員〕河野 祐子、田中 孝典、長崎 浩介、森永 啓、阿南 春美

〔事務局〕大分市企画課（公共施設マネジメント推進室）

IV 次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

1. 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討

① 大分市を取り巻く現状

② 公共施設等に要する経費の圧縮に向けた対応

③ 施設保有量の最適化に向けて

④ 脱炭素化に向けた取り組みの推進

⑤ 今後のスケジュール（案）

2. その他

5 その他

6 閉会

V 議事概要：以下の通り

〔事務局〕 3 議事1 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について「① 大分市を取り巻く現状」を説明

〔説明概要〕

- 投資的経費（更新・改修経費）は、これまで概ね200億円前後で推移してきたが、令和4年度以降、新規施設整備等により増大している。
- 基金は減少傾向であり、特に主要3基金は、令和10年度に約33億円まで減少する見込みであり、非常に厳しい財政運営が必要という予測となっている。
- 公共建築物の状況として、高度経済成長期に整備した施設が多く、築年数が30年以上経過した施設が6割を超えている。これは、基準年（平成26年度）と比べて17ポイント増加しており、老朽化対策が急務となっている。
- 現状の公共施設等（建築物・インフラ）を60年程度で更新した場合、約526億円/年が必要となり、これは、直近の実績と比較すると約90億円/年の増加となる。
- 厳しい財政状況の中、公共施設等に要する経費の更なる増大は現実的ではないため、圧縮に向けた取組が必要となる。

〔委員〕 意見なし

〔事務局〕 3 議事1 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について「② 公共施設等に要する経費の圧縮に向けた対応」を説明

〔説明概要〕

- 施設の延命化（長寿命化）対策を講じることで、直近の実績額と比較した場合、約 32 億円/年の増加までの圧縮が可能と推計。
- 一方で、仮にすべての施設を長寿命化した場合、財政負担の軽減は図られるが、これは、今回の推計期間（30 年間）において、築年数的に改修対象施設が多く存在したことが要因であり、長期的に考えた場合、「高度経済成長期に集中的に整備された施設の一斉更新」という課題に対しては、問題の先送りとなりかねない。
- 今後の基本的な整備方針案としては、長寿命化対策を基本としつつ、将来的な負担の先送りとならないよう、戦略的な観点から建替の採用も検討。
また、改修等の検討にあたっては、施設所管課だけではなく、建築土木技術部署と協議・連携する中で、改修の可否や規模等を判断する。
- なお、計画の実効性を確保するため、予算査定にあたり、公共施設マネジメント推進室も関与していく方向で財務部局と調整中。

〔委員〕 前回の委員会でも懸念事項として意見があった「計画の実効性」を確保するため、予算査定への関与などの検討をいただいているということで、是非その方向で議論を進めていただきたい。

なお、長寿命化対策を講じることで財政負担の軽減が図られるということですが、まずは、長寿命化で対応せざるを得ない状況という理解でよろしいでしょうか。

〔事務局〕 厳しい財政状況であることから、前提としては、どのようにして事業費の圧縮と財政負担の平準化を図っていくかを考えると、長寿命化という選択肢を取らざるを得ない部分が多いと考えております。

しかし、長期的に考えた際には、公共施設の建替問題を先送りすることがないように、戦略的に建替を含めた対応をしていくべきとは考えております。

〔委員〕 まずは足元の財政状況を踏まえ、長寿命化改修が上手く適合するので、それを活用しようということですね。わかりました。

～ 次頁へ ～

[事務局] 3 議事1 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について「③ 施設保有量の最適化に向けて」及び「④ 脱炭素化に向けた取り組みの推進」を説明

[説明概要]

- 公共建築物の延床面積については、新規整備等により増加傾向となっている。
- 今後の施設保有量最適化に向けた方針案として、施設を更新する際には、当該施設の延床面積20%削減を図るとともに、集約化・複合化・機能移転・廃止等の施設再編を検討、また、延床面積増加に繋がる新規整備は、原則行わないことを掲げることとしたい。
- 施設の再編やあり方を検討するにあたり、施設の物理的・機能的・経済的などの側面から、施設評価を行うことで、現状の見える化を図る。

[委員] 現状の面積を維持したまま、長寿命化を全施設で図るのは現実的ではないと思います。そこで何を最優先にして考えるかという、やはり「安全面」となるとインフラが一番重要かと思います。

一方で、ハコモノで考えた場合、学校がなかなか減らせないとすると、次の選択肢は公民館やホールなどの機能的に重複している施設が挙げられると思います。そういったところを学校施設などと上手く複合化しながら、まとめていくというような考え方も一つ大きなテーマとなるかと感じました。

若い世代のことを考えると、世代によって新しい施設が何もない時期があって修繕した施設ばかりを使用しなければならないというのも、寂しく感じるのではないかと思います。

そういったことを踏まえると、市民の皆さんにも、「今の施設を残したまま」や「何も減らさない」とかではなくて、若い世代にも新しいものを供給できる仕組みを理解いただくことも大事なかなと思いました。

だから、今の社会ニーズにあったものなどの良いものは良いものとして整備していきながら、いろいろ切り離さなければいけないものなどは廃止、民間に売却といった考え方は持っておく必要があると感じています。

公民連携については、ハード的な公民連携だけではなく、ソフト的な民間のノウハウも十分に活用できると思いますので、民間提案制度などもありますから、そういった制度の導入についても、前向きに検討していただけると、より一層、新しいステップに向けた取組ができるのではないかと思います。

以上を意見としてお伝えできればと思います。

[委員] 施設評価を行なっていきたいとのことですが、これはどのようにして行うのか。現時点のイメージでかまいません。

[事務局] 施設の評価は、数値的な評価を想定しています。

詳細は未定ですが、恣意的な判断が働かないような評価とするため、可能な限り定量的な評価指標を設定したいと考えています。しかし、地域・立地上の特殊要因等はあると思いますので、そういった定性的な部分も評価できる仕組みにしたいと考えています。

〔委員〕 財政状況等を踏まえると、公共建築物の総量削減は必要不可欠だと思いますので、それを検討するにあたっての仕組みを導入することは大いに賛同します。

そこで、施設評価について、客観性を持たせるというのは非常に重要かと思います。ハード指標については、新しい・古いなどで単純かと思いますが、ソフト指標、例えば利用状況や料金が適正なのかなど、いろいろあると思います。利用状況でよくあるのが、特定の団体ばかりが使っているとかの個別事象もいろいろあると思いますので、そういう現状把握をしていただくのも重要だと思います。

〔事務局〕 施設評価については、支出の面だけではなく、収入も踏まえたトータルコストを比較する必要があると考えておりますし、実際の利用状況等も踏まえて評価できればと存じます。

料金については、ご指摘のとおり、他都市に比べてスポーツ施設が特に安いという実情もあり、現在、別の外部委員会にて、使用料金の算定基準の策定に取り組んでいるところですので、適正な料金に改定できればと考えております。

〔委員〕 施設の利用料金が非常に安い中で、改修等に係るコストは高くなってきている。利用している方は安く利用できてよいとは思いますが、その補填は皆さんの税金で対応しているので、その辺を踏まえた検討をしていただいて、適正な料金を徴収していただいて、収入の面からもきちんとした対応をするべきだと思います。

〔事務局〕 3 議事1 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について「⑤ 今後のスケジュール（案）を説明

〔委員〕 意見なし

〔事務局〕 3 議事2 その他については、特になし

～ 閉会 ～